

一般社団法人 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会

発行人/会長 坂本 洋  
編集人/政策委員会

〒020-0024 盛岡市菜園一丁目3番6号農林会館6階

☎(019)654-1434

Fax(019)654-1437

ホームページ <https://iwasiyou.com/>

Eメール [iwasiyou@hyper.ocn.ne.jp](mailto:iwasiyou@hyper.ocn.ne.jp)

I W A S H I Y O U R E N

発行/令和2年10月9日



シンボル・マーク

子と親・幼稚園が  
ともに手をとりあっ  
て未来への飛躍を願  
うもので、親と幼稚  
園が子どもを育む姿  
を岩手の「い」に象徴  
している。

# 広報岩私幼連

VOL

113

(題字は工藤巖元岩手県知事)



『みんななかよし』

# 新型コロナウイルス禍での対応課題



一般社団法人 岩手県私立幼稚園・  
認定こども園連合会

会長 坂本 洋

世界的パンデミック、未だ収束の兆しが見えないウイルス禍は、国内外とわず多面にわたり重大な影響をもたらしております。岩手県は、7月下旬まで全国で唯一「感染者0」で日々の感染拡大ニュースで話題になりました。世界各地のこのような危機的状況の中で、その対応としてニューノーマルとか新しい生活様式を余儀なくされておりますが、我々幼児教育・保育を充実する事業にとってどんな課題があるか。

なお、本稿では感染者への専門的医療治療対策や体制については他に譲り、概観してみたいと思います。

## 1、一般的な企業での課題

企業運営の事業存続はそこで働く人材に支えられ、従業員の生活や地位向上を保障します。またその稼働で企業の社会的使命や社会的貢献を果たしております。しかしコロナ禍での稼働は、飛沫感染拡大防止のため三密の回避で不要不急の外出自粛、職場での密集・密接など対面でのコミュニケーションを避け、テクノロジー利用のリモートワークの徹底等の働き方の見直しを中心です。更には、感染多発地域（人口10万人当たりの感染者数）への営業

移動や私用往来自粛や留意（訪問往来後一定期間自宅待機等）の徹底が言われます。それがかなわぬ企業は、大半は解雇や休業へ直結して長期にわたり企業収益が得られず社会貢献はおろか人材への生活保障のセーフティネットに支障をきたし、賃金支給ができず企業運営の社会的責任を見直すことが課題となっております。

## 2、幼児教育業界での対応

幼児教育的には、新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営ガイドラインや保育所等における感染症対策ガイドラインに基づくきめ細かい対策を講じて、休業せず事業継続を原則としている状況です。基本的には上記の一般企業と重複するのですが、3つの密（密閉・密集・密接）の徹底した回避。こまめな手洗い、消毒、検温の体調管理。咳エチケット等のしつけ指導につきますが、マスク使用については賛否があり、園内活動では使用しない方向が強い現況です（職員マスク着用は必須です）。この対応について教職員はもとより、幼児の保護者にも連携して取り組む徹底を図っております。

しかしながら、実態は幼児特有の発達過程の支援や援助が本務であることから、その徹底指導には関わる大人の丁寧な率先垂範や「どうして」が幼児に分かる説明と時間が重視されます。

加えて施設では、日常として遊びを通して総合的な指導を行っており、他の幼児との接触や遊具の取り合い共有、遊ぶ拠点の分散、幼児が向かい合わない場の設定、遊びを楽しみつつ接触を減らす工夫とか、歌を歌う際の間隔や幼児の口の方向などを考慮すると、感染リスクの密接・密集の回避には十分な工夫と配慮が必要です。そのうえで適時の手洗いや手指の消毒、活動後の職員による環境消毒等を行っておりますが、過度な風潮が現場に重荷

となる傾向でもあります。

従って、新年度始業以降の諸行事（保育参観、遠足、発表会等）は、外部感染予防を含め縮小や中止のやむを得ない状況となり、園内へ感染発症源を持ち込まないを徹底し、登園や降園時の保護者対応等も連携して感染予防にご協力をいただく状況が続いており、従来の平常な教育・保育状況ではなく、持ちこたえておりますが早期収束を願わずにおれません。

## 3、今後の基本的な留意

改めて今後我々が留意する課題は、次の項目にまとめられると思います。

- ・ 幼児期は依存から自立への発達過程。遊びを通じた適切な環境での総合的指導が基本。
- ・ 以前にもまして感染症拡大のリスクを認識し、日頃からの総合的保健衛生への体制を強化する。
- ・ 常に施設なりの集団感染発症（クラスター）を念頭に未然防止と早期検知の認識を深める。
- ・ 基本的な感染予防の徹底を心掛ける。（3密回避や手洗い、うがい、消毒等の習慣化）
- ・ 新生活様式やニューノーマル等を保護者とともに連携して注意喚起に努める。
- ・ 各園なりの感染発症を想定した対応マニュアルの作成と随時確認。

（休園等を想定した関係機関への報告。園内の保健衛生消毒体制。職員の待機等勤務体制。園児保護者への諸連絡体制。休園園児へのリモートワークシステムの確立等々）

以上新型コロナウイルス禍にかかわらず、日常的感染症予防から危機管理体制留意事項として、対応マニュアルの作成が重視され、職員一同の共通理解の深まりが大切だと感じております。

## ◎岩手県ふるさと振興部学事振興課の紹介

～本県の私立幼稚園教育の  
良好な環境づくりに向けて～



岩手県ふるさと振興部学事振興課  
総括課長 中里 武司

皆様におかれましては、日頃より本県の私立幼稚園教育の振興に御尽力いただき、また、新型コロナウイルス感染症対策に取り組まれていることに感謝申し上げます。

さて、学事振興課は、本年4月から、部局再編により新設された「ふるさと振興部」の組織となりました。地域振興を強力に進める中、私立幼稚園を含む私立学校の振興や、高等教育機関との連携に関する業務を行っていますので、よろしくお願いたします。

昨年10月から「幼児教育・保育の無償化」が始まりました。県では、これを円滑に進めるとともに、「いわて県民計画(2019～2028)」に掲げた「私学教育の充実」に向け、各園の創意工夫を生かした特色ある教育活動への支援を通じて、幼児の健全やかな成長のための良好な環境づくりに向けて取り組んで参ります。

子どもたちが健やかに成長されるよう、安心・安全な園の環境づくりのため、引き続き皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 令和元年度学事振興課事務分担表(私学振興担当)

※幼稚園関係のみ抜粋

私学振興担当		担 当 者
事務分担		
1 私学関係団体からの請願・陳情に関する事 2 議会に関する事(私学振興担当所管分に限る。) 3 私立学校審議会の総括に関する事 4 いわて県民計画、復興計画、国土強靱化地域計画及び岩手県教育振興計画に関する事 5 私立学校の指導に関する事(いじめ防止対策推進法に係る事務を除く。) 6 県民からの提言に関する事 7 学校事故報告に関する事	私学振興担当課長 菅原 俊樹	
1 私学振興担当事務の総括に関する事 2 助成対象法人の事務検査に関する事		主 査 戸塚 教仁
1 私立学校運営費補助金に関する事(一般運営費) 2 私立学校関係予算及び決算に関する事 3 耐震化対策及び耐震化支援事業費補助金に関する事 4 私立学校施設整備費補助金(台帳・財産処分含む)に関する事		主 任 谷地 琢府
1 幼稚園設置法人及び私立幼稚園に関する事 2 幼稚園の運営費補助金に関する事(教育改革推進特別経費、幼児特色) 3 子ども・子育て支援新制度への移行に関する事 4 災害復旧費国庫補助・県補助に関する事 5 学校の安全対策に関する事(施設に関する事に限る。) 6 幼児教育の無償化に関する事		主 任 菊池 研美
1 学校教育法施行細則及び私立学校法施行細則に関する事 2 私立学校法施行細則関係の届出に関する事(幼稚園、小・中学校、高校、専修学校) 3 私立学校審議会に関する事 4 災害状況の報告に関する事		主任行政専門員 保原 良和
1 幼稚園の運営費補助金に関する事(特別支援教育費) 2 学校の安全対策に関する事(施設に関する事を除く。) 3 助成対象法人の事務検査に関する事(法人との事前調整及び通知に関する事。) 4 私立学校振興費等補助金関係説明会に関する事		主 事 高橋 希望
1 私立学校被災児童生徒等就学支援事業に関する事 2 学校法人及び私立学校に係る調査、経計及び報告に関する事 3 緊急スクールカウンセラー等活用事業費に関する事 4 学校法人及び私立学校に対する諸通知に関する事 (*定例的な会議、研修会等の通知や簡易な事務連絡等を除く。)		主 事 柚 はなの
1 補助金の審査補助に関する事 2 私立学校式典等へのメッセージの送付に関する事		会計年度任用職員 (私学支援専門員) 藤原 浩子
1 諸台帳の整備及び書類の整理に関する事 2 学校法人及び私立学校に対する諸通知*に関する事 (*主に定例的な会議、研修会等の開催通知、簡易な事務連絡等を対象とする。) 3 学校法人及び私立学校に対する諸通知の事務補助に関する事 4 その他指示された業務に関する事		会計年度任用職員 (事務補助) 宮野 麻子

学事企画担当		担 当 者
事務分担		
1 私学関係栄典事務及び表彰に関する事		主 任 白沢 明美

## ◎保健福祉部子ども子育て支援室の紹介

～認定こども園を取り巻く動向について～



岩手県保健福祉部子ども子育て支援室  
室長 中里 裕美

皆様におかれましては、日頃から本県の児童福祉行政及び子ども・子育て支援施策の推進に御尽力いただき感謝申し上げます。

さて、近年、少子化の進行や就業形態の変化等、子どもや家庭を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした中、平成27年度の子ども・子育て支援新制度の施行や昨年10月の幼児教育・保育の無償化の実施などにより、随時、子ども・子育て支援の拡充が図られてきたところです。

当室では、「誰もが子どもを健やかに育みやすいと実感できるいわて」の実現を目指して、本年7月に策定した「いわて子どもプラン(2020～2024)」等に基づき、地域の実情に応じた子ども・子育て支援の充実等に取り組んでいます。

認定こども園は、保護者の就労状況やその変化等によらず柔軟に子どもを受け入

### 子ども子育て支援課事務分担表(子育て支援担当)

認定こども園に係るもの(令和2年9月14日～)

事務分担		担 当 者
認定こども園の施設整備に関する事		子育て支援担当課長 加藤 勝洋
子育て支援担当の総括に関する事		
子育て支援担当の関係条例・規則等に関する事		
子ども・子育て支援新制度の総括に関する事		
子ども・子育て支援事業支援計画に関する事		
認定こども園の認可、認定に関する事		主任主査 吉田 光
幼保連携型認定こども園部会に関する事		
認定こども園の指導監査に関する事		
施設型給付費・地域型保育給付費・委託費に関する事		
子育てのための施設等利用給付交付金に関する事		
施設の災害復旧に関する事		
保育士確保対策に関する事		
保育士のキャリアアップ研修に関する事		主 査 松尾 友子
児童福祉研修事業(新任保育士、潜在保育士研修)に関する事		
保育所入所待機児童・保育所アンケート調査に関する事		
地域子ども・子育て支援事業に関する事		
病児保育施設の施設整備に関する事		主 事 土井尻 啓輔
保育士及び保育教諭に関する事		

られる施設であることから、新たな施設整備や既存施設の円滑な移行のみならず、職場環境の改善に向けた支援にも取り組んでまいりますので、引き続き、御理解、御協力をお願い申し上げます。

## 令和2年度第1回経営セミナー

### 研修Ⅰ 「子ども子育て支援制度公定価格の見直しと処遇改善加算Ⅱの取り組みについて」

講師 岩手県保健福祉部子ども子育て支援室 吉田 光 主任主査



第1回経営セミナーが行われ、上記の件について、岩手県保健福祉部子ども子育て支援

室の吉田光主任主査より説明があった。給食費については、2号認定子どもの公定価格に残された旧副食費相当

額の一部については、令和2年度においても減額せず、また、経費の位置づけは、事業費から人件費に変更された。土曜日の開所については、その月の土曜日に閉所した日数に応じて設定する割合により段階的に減算する仕組みに見直された。所長設置加算・管理者設置加算の基本分単価への組入やチーム保育加配加算の在り方や幼保連携型認定こ

も園における施設長に係る加算調整措置の廃止等についても説明がなされた。また、処遇改善加算の大きな変更点は、加算の基準年度の見直しと処遇改善加算Ⅱの配分方法に前年度とは異なる措置が講じられているので注意が必要である。

### 研修Ⅱ 「新型コロナウイルス感染症対策と組織マネジメントについて」

講師 (公財)岩手県予防医学協会 専務理事兼呼吸器内科部長 武内 健一 先生



研修Ⅱとして(公財)岩手県予防医学協会専務理事兼呼吸器内科部長の武内健一先生より上記の件について講演を頂いた。

先生は、医師会においても新型コロナウ

イルス感染症対策特任部会委員も勤められており、コロナ対策の最新情報を提供いただいた。新型コロナウイルス感染症とはどんな感染症なのかの説明があり、正しいマスクの付け方やウイルスの特徴の説明がなされた。それによると感染性の有無は不明であるが、ウイルスの生存時間は銅で4時間、段ボールで24時間、プ

ラスチックやステンレスでは72時間と付着した物質によっても異なるので消毒の祭は注意が必要である。「脱皮しない蛇は死ぬ」というニーチェの言葉を引用し、感染症流行の原因は「ヒト社会のあり方」の変化(脱皮)であり、その変化の中で適切な対応が求められると締めくくられた。

### 研修Ⅲ 「幼児教育現場における組織マネジメントの現状と課題」

講師 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 会長 坂本 洋



岩手県私立幼稚園・認定こども園会長の坂本洋先生にキャリアアップ研修・マネジ

メント分野のご講演をいただきました。今回初めてマネジメント研修を受ける方が多いという事で、今なぜ、幼児教育業務にマネジメントが注視されるのか、それは教諭・保育士の養成課程でマネジメントは、専門職としての経営的考えは必要ないという時代背景があったということ。時代の要請から事業業務が拡大

し、園を組織化していかなければ運営が立ち行かなくなっている現状があり、キャリアアップ研修の義務付けとスキルアップをしていく必要があるという説明でした。経営学者P. F. ドラッカーさんの著書「マネジメント・基本と原則」から組織とは、①組織特有の使命、幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎が養われる時期であること。②働く人を生かす。生計を得る。社会的地位を高めていく経営。③自らの組織が社会に与えるもの、社会貢献の三つの役割があるが、幼児教育の現場において業務推進組織は、どこにでもいるリーダーの存在、分

散型リーダーシップ型でよいのではというお話でした。

また、私立幼稚園が抱える当面の課題については、昨年10月から国税を投入して保育の無償化が実施、さらなる教育・保育の質の向上、研修の充実が求められるようになってきたことと、組織化や人材育成確保と処遇改善などへの課題対応からキャリアアップ研修の必須・義務づけられたというお話でした。

最後にミッション、ビジョンの存在は、経営の必須要素であるということでした。

## 今年度事業に向けて

総務委員長 高橋 繁雄

コロナウイルス感染症の収束が一向に見通せない中、新しい生活様式を踏まえての行動・活動を徹底することで感染拡大防止に努めることが求められる中、幼児期の教育・保育を担う私共は学校運営ガイドライン、学校衛生管理マニュアルを参考にし、まずは日々の園生活における健康管理・衛生管理等を周到にし感染リスクを抑え子ども達そして職員の安全を確保し運営していくことが最重要になってきます。

令和2年度、岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会が実施する各種事業においても可能な限り最大限の感染拡大防止策を講じ対応することで、参加者や関係者の感染の防止に努めたい。

今年度は年度当初の事業計画の冒頭に示された基本方針に則り、具体的に掲げた重点目標達成のため、各常置委員会と連携・協力しながら各種事業を遂行していきたい。

加盟園の理解と協力のもと事業を推進し成果をあげることで、岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会ならびに加盟園が地域の幼児教育・保育の中心的役割を担っていることの社会的認知をこれまでも増して高めていきたい。

## 令和2年度政策委員会事業計画

政策委員長 今西 界雄

令和2年度は、新型コロナへの対応に追われながらのスタートとなった。その影響で全日本私立幼稚園連合会が機能していない状況が続いており、様々な面で影響が出てきているのが現状である。その中でもネットを使った対応策なども講じられており、今後の動向に注目していきたい。

昨年10月から待望の幼児教育・保育が無償化され、保護者の経費負担が軽減され、長年の悲願が実現されたとと言える。しかし、その反面施設型給付園においては、給食費の徴収や私学助成園においては、事務量の増加等新たな問題が出てきたと言える。各市町村間においてもその対応に違いがあり、その実態を調査し検証していきたい。また、振興大会を開催し、保護者とともに公費助成の更なる充実を働きかけ、その実現を目指していきたい。ホームページをはじめ、広報「岩私幼連」「イワシヨウジャーナル」の広報紙を通じ、これらの課題について発信する。全日私幼連が運用する幼稚園ナビは、改良が進み求人等の有用性が高まったので各園での活用を促進させたい。PTA連合会は、盛岡地区で私立幼稚園・認定こども園振興大会を開催し、年2回会報を発行する。

## 資質向上を目指して学び続ける

教育研究委員長 坂水 かよ

幼稚園教育要領が改訂され3年目、昨年10月からは幼児教育の無償化が本格実施され、幼児教育保育の重要性和その責任がさらに増しています。世界中に大流行するコロナ禍の収束の兆しが見えない緊張感の中で、幼児教育の質と専門性の向上を優先課題とし、「常に学び続け、質を高めていく」ための研修会を積み重ねていくことが当委員会の責務と気持ちを引き締めています。平成30年度からは岩手県の保育士等キャリアアップ研修実施機関としての認定を受け研修会が実施されてきましたが、今年度もいろいろな不自由はありつつも、会員の皆様のご理解とご協力を得て6月～7月に新任教諭研修会3回、7月末には第1回教員研修会を、それぞれ良い講師を得て開催することができたことを心から感謝しています。着実に15時間の受講修了書の受領者も増えてきました。

今後、全日本私立幼稚園教育研究機構でも、リモートによる研修会等を取り入れていく方向のようですが、私達もこれまで「当たり前」としてやってきたことを見直し、“今まで”にこだわらず“初めて”に挑戦する心意気を持って教研委員一同で頑張っていきたいと願っています。

## 経営研究委員会の事業方針

経営研究委員長 佐々木 栄光

幼児教育・保育現場を取り巻く社会環境は目まぐるしく変化しています。業界全体が混乱する中施行された昨年の幼児教育・保育の無償化に続き、公定価格の5年目見直しや2022年度を目途とされるキャリアアップ研修の受講要件の必須化、また恒常的な課題としての私学助成園の処遇改善、質の高い人材確保と育成、教育・保育の質の向上、働き方改革による職場環境の整備や組織マネジメントに加え、現在進行形で長期化も予想される新型コロナウイルス感染症対策等、日々の園運営は課題が山積しております。

当委員会では、これらの多岐にわたる問題に対して喫緊課題を取り上げ、内外の講師を招聘した研修会を実施し、以って園運営の課題解決へ向けた情報提供と理解の深化に資する機会提供を図って参りたいと思います。

令和2年度の事業計画は、新型コロナウイルス感染症対策や組織マネジメントを主なテーマとした第1回経営セミナーを8月に実施しており、今後は令和3年1月に第2回経営セミナーの開催を予定しております。Withコロナに配慮しつつ実りある効果的な研修会の実施に努めていきたいと考えておりますので、多くの先生方の参加をお待ちしております。

## 地区会だより

### 県北 「コロナで行事も見直し」

今年度の県北地区は新型コロナウイルス感染症への対策で始まりました。まったく初めての出来事なので利害策としてマスク、手洗い、消毒、室内の換気、手の触るところや遊具の消毒、外部からの訪問者の制限等を徹底しています。

子ども達の生活も大きな影響を受けています。園内は勿論、市の行事も秋祭りをはじめ縮小や中止が相次ぎ、例年楽しみにしている園児の参加や賑わいも減ってしまいました。そんな中でまつのまるこども園ではリング園のりんご狩り、田んぼの稲刈り入れを行いました。

二戸市の補助金が従来の保育施設連絡会予算から各施設へ直接給付に変更され、各園で必要な教材等を独自に揃えることが可能になりました。

久慈地区ではコロナ感染と秋、冬にかけてインフルエンザの流行も視野に入れたガイドラインをつくり取り組んでいます。

(まつのまるこども園園長 國分一彦)



コロナに負けない元気な身体を作ろう

### 盛岡 「楽しんで保育したいね!!」



えのぐって最高~!!

平成30年に新教育要領等が改定され、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」等において、今まで各園で実践されてきた幼児教育を言葉で明示されたことは、今後の保育の沿うべき指針が示され、現場の保育の質を高めることに繋がっています。

盛岡地区会の教員研修会は2年継続の初年度でしたが、新型コロナウイルス感染症予防のため8月まで休止しました。研修会のリード役を担っている主任会では、盛岡大学教授石川悟司先生を講師にお迎えし、研修の内容や方法を改めて学ぶための勉強会を実施し、9月より6班編成で教員研修会をスタートしました。

教育・保育の無償化が実施された今日、改めて、人材育成と処遇改善の二つの重点課題を掲げて地区会は進んで参ります。

(つばめ幼稚園園長 工藤純世)

### 中部 「今、五里霧中の中で・・・」

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、花巻・北上の各幼稚園・認定こども園では、園長会を開き情報交換や研修会の持ち方について話し合いをしました。各園、例年、一学期に行われていた行事を検討しながら進めていくことになりました。当園では、6月に保育参観フリーウィークを設け、事前に保護者に希望日を記入してもらい1クラス5~6人の参加人数で、一時間程度、参観していただきました。又、7月の夕涼み会は年長児と保護者一名の参加で行い、9月の運動会では見に来られない方を考慮し初めてYouTubeで生ライブ配信を試みました。いずれの行事も体温を測り・消毒・密にならないよう人数制限・時間短縮・マスクの着用等、感染予防対策をして行いました。

まだ、先生方の地区毎の研修会も行えずにいますが、園長会や主任会を地区毎に持ち、情報交換をしています。

(中央みのり幼稚園園長 千田節子)



元気よく入場行進

## 県南 「コロナ時代の行事のあり方」



運動会では、鼓隊演奏を一生懸命頑張りました。

令和2年度の県南地区研究総会は、新型コロナウイルスの影響で実施出来ませんでした。また、毎月行われています教員研究会も各園独自で行うことになりましたので、今回の寄稿は自園の今年度の園内の状況についてお伝えします。

入園式は来賓を招かず短縮して行いました。また、その他の行事である健康診断や老人ホームへの慰問、保育参観、親子遠足などは中止または延期されたままとなっております。

直近では、大きな行事である運動会を午前のみとし、感染予防に配慮し行われました。例年とは、大きく違った運動会となり寂しい運動会となってしまいましたが、子どもたちは、一生懸命運動会に取り組んでおりました。

今後は、新型コロナウイルス終息が見通せない状況のなか、園内保育活動は、どのように取り組んで行けば良いのか、試行錯誤の日々が続きそうです。

(幼保連携型認定こども園花泉こども園 主幹保育教諭 小野寺真也)

## 沿岸 「自ら考え創りだしていく楽しさ」

沿岸地区では宮古ブロック、大槌・釜石・遠野ブロックに分かれて2年連続で「子どもとともに作り出す」活動と環境」というテーマで研究をスタートしました。

新型コロナウイルス感染予防の為、皆で話し合いを持つ機会や園内研修の取り組みなどを報告する事が難しく、例年通りの研修や研究が出来ない状況です。

今年1年目の研究を進める上で、これまでの保育を振り返る所から始めました。教師が、幼児の興味や関心、発達をしっかり理解しているか?教師主導の一方的な保育展開になっていないか?など、様々な課題が出されました。課題を解決する為に、各園で幼児の捉え方や環境構成の工夫を意識しながら、毎日の保育を進めています。

(光の園幼稚園 教務主任 後藤昌子)



園内研修で各クラスの活動を報告している様子

### 岩私幼連の年間行事

#### ○政策委員会

事業名	期 日	開 催 地
第23回岩手県私立幼稚園・認定こども園振興大会	R 2.10.23 (金)	市文化会館2ホール

#### ○教育研究委員会

事業名	期 日	開 催 地
第1回新任教諭研修会	R 2. 6.13 (土)	盛岡市総合福祉センター
第2回新任教諭研修会	R 2. 6.27 (土)	北上さくらホール
第3回新任教諭研修会	R 2. 7. 4 (土)	盛岡市総合福祉センター
第1回教員研修会	R 2. 7.30 (土)	盛岡市総合福祉センター
総合研修会・第2回教員研修会	R 2. 1.12 (火)～13 (水)	花巻市/ホテル千秋園
第36回教員研修大会(盛岡地区大会)	R 3. 3.24 (水)	盛岡グランドホテル

#### ○経営研究委員会

事業名	期 日	開 催 地
第1回経営セミナー	R 2. 8.21 (金)	ホテルメトロポリタン盛岡
総合研修会・第2回経営セミナー	R 3. 1.12 (火)～13 (水)	花巻市/ホテル千秋園

#### ○全日私幼連東北地区会

事業名	期 日	開 催 地
第28回東北地区設置者・園長研修会	R 3. 6.25 (金)	宮城県仙台市 (コロナの影響により)1年延期)
第35回東北地区教員研修会(秋田大会)	R 3.10.15 (金)～16 (土)	青森県青森市 (コロナの影響により)1年延期)

#### ○(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

事業名	期 日	開 催 地
第11回幼児教育実践学会	R 2.12.20 (土)	大妻女子大学千代田キャンパス (オンライン開催へ変更)

#### ○岩手県教育委員会

事業名	期 日	開 催 地
岩手県幼稚園教育実践協議会	R 2. 8.17 (月) 中止	岩手県立生涯学習推進センター
岩手県教育研究発表会	R 3. 2. 9 (火)～10 (水)	岩手県立生涯学習推進センターほか



## (一社)岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会役員

区分	氏名	園名	地区会長
会長	坂本 洋	幼保連携型認定こども園 盛岡幼稚園	
副会長	坂水 かよ 今西 界雄	聖パウロ幼稚園 ふたば認定こども園 双葉幼稚園	盛岡地区 中部地区
理事	國分 一彦 塩竈 素明 佐々木 栄光 植村 生子 工藤 純世 高橋 繁雄 根内 純 菊池 幸江 蜂谷 隆博 三ノ宮 敏子 加藤 敏子	まつのまるこども園 認定 龍澤寺こども園 みどり幼稚園 認定こども園 都南幼稚園 つばめ幼稚園 認定こども園 つつみ幼稚園 仙北町幼稚園 ゆもと幼稚園 修紅短期大学附属認定こども園 幼保連携型認定こども園 しんじょう幼稚園 小百合幼稚園	県北地区 県南地区 沿岸地区
監事	平野 允苗 川村 春男	青葉幼稚園	

(一社)岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会常置委員会委員  
(令和2・3年度)

委員会名	委員長	副委員長	委員	
総務	高橋 繁雄 (つつみ)	國分 一彦 (まつのまる)	坂水 かよ (聖パウロ)	今西 界雄 (双葉)
政策	今西 界雄 (双葉)	植村 生子 (都南)	蜂谷 隆博 (修紅短大附属)	
教育研究	坂水 かよ (聖パウロ)	根内 純 (仙北町)	菊池 幸江 (ゆもと)	加藤 敏子 (小百合)
経営研究	佐々木 栄光 (みどり)	塩竈 素明 (龍澤寺)	工藤 純世 (つばめ)	三ノ宮 治 (しんじょう)

(一社)岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会専門委員  
(令和2・3年度)

区分	教育研究		広報担当	
	氏名	園名	氏名	園名
県北	久慈 裕恵	久慈	駒木 由里加	岩手保健医療大附属
盛岡	前川 真理 作山 光子 藤澤 侑希子 明戸 美也	水道橋くるみ 赤石 都南 盛岡大学附属松園	前川 真理	水道橋くるみ
中部	白藤 千恵美	湯口大谷	佐藤 真喜子	やさか
県南	石田 悦子	八日市	岡澤 祐子	海の星
沿岸	菱沼 久実	甲東	佐々木 亜希枝	みどり

## ●編集後記

コロナ禍で各地の夏祭りの中止や縮小、不要不急の外出の自粛、在宅ワーク、リストラ、大学ではオンライン授業など社会が大きく変化し、ソーシャルディスタンスや新しい生活様式といった言葉が生まれている。そんな中で、幼稚園・こども園も園行事の中止や縮小を余儀なくされる園も多いはず。しかし、この幼児期に大切な体験の場を簡単に奪うことはあってはならないが、これまでのような園生活を続けることも難し

くそんな葛藤を今後も背負っていかなければならないのが現実。今は、コロナウイルスの治療薬やワクチンの開発の成功が願いであり、小さな子どもたちには、友達や先生と手をつないで密接を楽しみ、大きな声でみんなで元気に密集して行う活動を存分に味わってほしいと願います。

(政策委員 蜂谷隆博)